

平成 20 年度「OB と語る会」講師リスト

【学部 3 年生対象】

日 程	講師氏名	卒 業 年	勤 務 先
7 月 22 日 (火) 機能物質化学	井出 貴之 氏	平 8 卒・10 修卒	TOTO(株) 総合研究所 基礎研究部
	山末 耕太郎 氏	電化 昭 39 卒	現在 横浜市大にて予防医学研究中
7 月 22 日 (火) 化学生命工学	寺下 昭文 氏	平 6 卒	神奈川県県央地域県政総合センター
	丸山 晋一 氏	電化 昭 46 卒	(財)エンジニアリング振興協会 技術部 水素プロジェクト室

OB と語る会の講師を務めて

井出 貴之 (平成 8 年物工卒・平成 10 年修士卒)

昨年 (平成 20 年) 7 月に恩師である米屋名誉教授の依頼を受けて、学部 3 年生を対象とした“OB と語る会”の講師を勤めさせて頂きました。

私は、TOTO 株式会社に勤務し、7 年目となります。大学と企業の研究との違いを感じながら日々業務を行っています。大学を卒業してからそれほど長い時間が経っていないのですが、キャンパスを歩いて非常に懐かしく感じられました。今回の“OB と語る会”では、実際に企業に就職して、学生時代にもう少し注力しておけば良かったと感じていることのいくつかを学生の皆さんに向けて話しました。

在学中から現在まで、セラミックス材料の研究を行っているため、大学時代・研究室生活で学んだことが比較的多く活用できています。そのため、私が学生時代に学んで役に立っていることに関しての話は、学生にとってあまり参考にならなかったかもしれません。

私が日々感じていることは、研究を遂行するために必要な背景や研究の必要性の説明、プレゼンテーション技術が未熟であり、日本語、特に文章作成能力と伝える技術が必要であることを痛感していること

です。在学時にはそれほど気にしていなかった部分です。よく、語学、特に英語は重要であるとの話を耳にしますが、第一に身に付けるべきことは、日本語力とプレゼンテーションスキルです。以前に大学生の「日本語力」が低下し、中学生レベルの国語力しかない学生が国立大で 6%、四年制私立大で 20%にのぼるという報告を聞いた覚えがあります。研究室配属になると、卒業論文発表だけでなく、中間報告会や週報会、勉強会など報告する機会が多くあります。そのチャンスを有効に利用し、スキルアップして欲しいと願っています。真似ることからでも良いので、伝えたいことを伝える技術、相手が知りたい内容を的確に示す方法を研究室生活で学んで下さい。

とは言ったものの、勉強以外に目を向ければ時間に余裕のある大学時代にしかできないことが多くあります。公演の最後に述べた、“勉強・研究だけでなく、遊びでもなんでも、今やるべきこと、今しかできないことを真剣に行って、楽しい学生生活を送って欲しい。”ということが学生の皆さんに最も伝えたいことなのかもしれません。

OB と語る会に参加して

横浜市立大学大学院医学研究科 情報システム予防医学 山末 耕太郎（昭和 39 年電化卒）

私は大学卒業後、企業（富士フイルム）で感光材料の研究を行い、定年後、かねて興味があった医学の研究のため、横浜市大の大学院医学研究科の大学院に入り、予防医学の研究、特に脳卒中の主因となる高血圧予防の研究を行いました。昨年卒業し、特任教員として、引き続き研究を続けています。このような状況の中で、OB と語る会では、前半は企業生活での経験をもとにした話、後半では最近では若年者でも、高血圧者や糖尿病の予備軍がかなりいますので、予防医学の話をしました。前者では実験の大切さ、特に、観察の重要性、Reason Why, PDCA (Plan, Do, Check, Action) の大切さの話をしました。我々の学生時代は 3 学部が離れたところがあったが、今は統合され、同じ場所に集まったので、そのメリットを生かし、サークル活動ほかで、異分野の人とも積極的に付き合っ て視野を広げてほしいという話もしました。後者の医学研究の立場からは、食料やエネルギー問題の他に、少子高齢化社会で



の、医療の重要性の話、医療側からの工学分野への要望をお伝えしました。普段は医学部の学生に接しているせいもありますが、工学部の学生さんは、より医学、健康への関心の薄さを感じました。自分もそうでしたが、若いときはほとんど健康のことは気にせず、医学への関心も薄かったですが、若いうちから、自分の健康は自分で管理、守っていく態度は大切で、食事、運動、睡眠に留意して、健康体を保つことが、何をすることも重要なことと思います。

OB と語る会に参加して

寺下 昭文（平成 6 年物工卒）

昨年 7 月に学部 3 年生の前でお話をさせて頂く機会を与えていただきました。その内容は、現在の仕事や大学で学んだことで仕事に役立った事、学生が将来を考えるにあたってのアドバイス等を伝えてくださいというもの。

今では行政職公務員として研究開発とも縁遠く、正直なところ、卒業して以来、国大化学会の活動にはさして関心も無かった私にとって、久しぶりに母校に立ち寄る機会となりましたが、駅から校舎に至るまでの道筋及び構内の景色は在学当時とほとんど変わっていない印象でした。

この「語る会」は、私が在学中の頃には無かったかなと思いつつも、小ぶりではありましたが私の事前イメージよりも多くの学生が集まった教室の中で、プロジェクターを左に説明させて頂きました。多くの学生達は技術職として民間企業に就職されることと思いますが、そのような場合でも何らかの形で行政と関わる仕事をされる機会があると思ひ、また学生は日々難解な授業で鍛えられているので少々退屈な話にも耐えられるだろうと、私がこれまで歩



写真 職場風景 神奈川県厚木市内の機関（環境部局）に勤務しています。

んできた理系公務員の仕事の内容について長々と話をいたしました。

世の中の動きも早く、突然の不景気の中で新たに社会に巣立っていく学生達には幸運をお祈りいたします。あまり役に立つ話はできなかったと思いますが、この機会が学生達にとって何かの足しになれば幸いです。